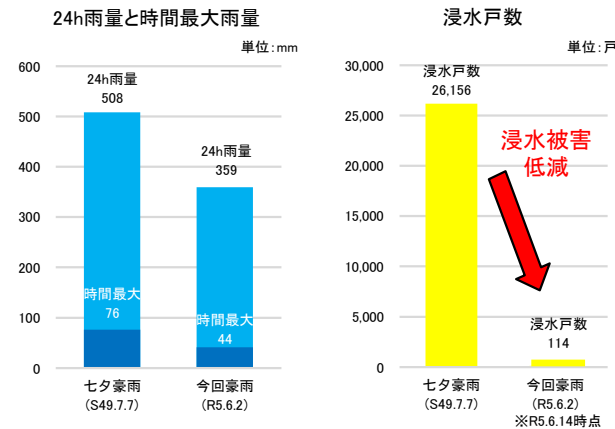


河川改修による治水効果（静岡県：巴川流域）

- 令和5年6月2日からの大雨により、静岡市では静岡地方気象台観測所で時間最大雨量44mm/h、24h雨量359mmを観測した。
- 巴川では、昭和49年七夕豪雨を契機として、昭和54年度から総合治水対策特定河川事業に着手し、放水路や遊水池等に加え、雨水貯留施設等を整備。
- 今回の出水において麻機遊水池全体で約264万m³の洪水を貯留することで巴川の水位上昇を抑えた。また、大谷川放水路では、約290万m³を海に放流した。
- これまでの河川整備や流域対策により、昭和49年七夕豪雨と比較して、浸水家屋数が大幅に減少した。



【巴川総合治水対策特定河川事業による整備効果】



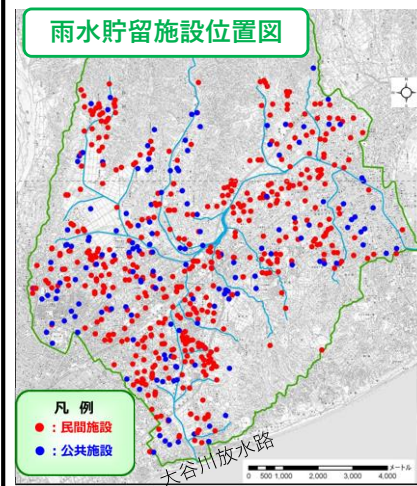
当時 (R5.6台風第2号) の状況



遊水池の貯留状況



【巴川流域内の流域対策 (雨水貯留施設)】



○これまでに、巴川流域内では官民が連携し、約60万m³分の雨水貯留施設が設置されている。



ため池雨水貯留施設 (葵区胸形神社)

